



草の根通信 Vol.42

URL: <http://www.manjiro.or.jp> UR: <http://www.manjiros summit.org>

住所: 東京都千代田区麹町2丁目12 - 18

グランアクス麹町 602号室

電話: 03 3511 7171 // Fax: 03 3511 7175

E-mail: info@manjiro.or.jp

第14回日米草の根交流サミットニューイングランド大会開催

・大会概要

2004年7月14日～21日まで7泊8日間、第14回日米草の根交流サミットニューイングランド大会が開催されました。開催地域はニューイングランド地方、ボストンを中心にして、メイン州、ニューハンプシャー州、バーモント州、マサチューセッツ州、ロードアイランド州、コネティカット州の全6州です。ボストン滞在時には、ボストン・コモンに近く、シアター・ディストリクト内にあるラディソン・ホテルに宿泊しました。参加者は、独立戦争の歴史が色濃く残るボストンの街並みを楽しんでいました。

地域分科会は10箇所で開催され、ホームステイを中心のプログラムや、テーマを決めたプログラムなどバラエティに富んだ構成でした。

今大会には、米国から600名、日本から200名が参加しました。(地域分科会詳細は次号でお知らせします。)

今大会の特徴は二つあります。

一つ目はキーパーソンの協力を主体としたことです。全10箇所の地域分科会では、各分科会キーパーソンが中心となってプログラミングし、ホストファミリーとのマッチングも行っていました。

二つ目はホストファミリーと過ごす時間を増やしたことです。ホームステイが例年より一日長かったこともあり、ホストとの親睦を深めることができ、地域分科会としてのプログラムとホストとの時間のバランスが良かったとの声もありました。

分科会以外でも多くのボランティアの方々に協力して頂き、無事終了しました。

日程	:7月14日	成田出発 / ボストン到着
	7月15日	小講演会 / オープニングセレモニー ウェルカムパーティー
	7月16日	地域分科会
	7月17日	地域分科会
	7月18日	地域分科会
	7月19日	“万次郎の足跡を辿って” クロージング・セレモニー / フェアウェル・パーティー
	7月20日	帰国、オプション・プログラムへ出発



ボストンの町並み



ラディソン・ホテル内

・地域分科会

詳細は次号にてお知らせ致します。

- 1、メイン州バンゴール
- 2、ニューハンプシャー州ハノーバー、バーモント州バーリントン
- 3、マサチューセッツ州セーラム
- 4、マサチューセッツ州ボストン
- 5、マサチューセッツ州コンコード
- 6、マサチューセッツ州アマースト
- 7、マサチューセッツ州フェアヘーブン
- 8、ロードアイランド州ニューポート、プロビデンス
- 9、コネティカット州ファーマントン
- 10、ニューハンプシャー州セント・ポールズ・スクール



ボストン内史跡、オールド・ステート・ハウス



・小講演会

7月15日、ボストン到着2日目に開催された小講演会は、在ボストン日本国総領事館主催でマサチューセッツ州ボストンにあるジョン・F・ケネディー・ライブラリー、スミス・ホールで行われました。

名の通り、ジョン・F・ケネディー大統領を記念して建設されたライブラリーは美しくデザインされており、大きなガラスの壁からはニューイングランドの海が一望でき、大会の始まりを気品高くしていました。

米国側のボランティアの尽力により、ライブラリーの閉館時間を延長して頂き、三人の方々にスピーチして頂きました。

参加者は小講演会のパンフレットや日米関係史、日米関係史DVDを在ボストン日本国総領事館から頂き、講演内容や日米史の理解を更に深めることとなりました。

- 挨拶**
- 1、在ボストン日本国総領事 西林万寿夫
 - 2、ボストン日本協会理事長 ピーター・グリーンリ
- スピーチ**
- 1、在米国日本国大使館公使 阿川尚之
「日米関係150年と朝河貫一の予言」
 - 2、タフツ大学フレッチャー・スクール
歴史学部教授 ジョン・カーティス・ペリー
「グラスルーツとライスルーツ」
 - 3、米日財団理事長 ジョージ・パッカード
「ライシャワー先生からの不屈の教え」



ジョン・F・ケネディー・ライブラリー



小講演会様子

・オープニング・セレモニー

- 挨拶**
- 1、ボストン日本協会理事長 ピーター・グリーンリ
 - 2、在ボストン日本国総領事 西林万寿夫
 - 3、財団 理事長 波多野敬雄
 - 4、財団 理事 楨原稔
 - 5、マサチューセッツ州立大学学長 ジャック・M・ウィルソン
- 地球儀交換** 万次郎家5代目中濱京
ホイットフィールド家5代目ロバート・ホイットフィールド
- 間奏曲** タイガー・オオコシ・ジャズ・アンサンブル

乾杯 ボストン日本協会会長 ヴァーノン・アルデン

・ウェルカム・パーティー

オープニング・セレモニー後、同会場にてウェルカム・パーティーが開催されました。オープニング・セレモニーの乾杯後、参加者にカクテルが配られ、豪華な食べ物が提供されました。途中、愛知県犬山市長・石田さんによるカラクリ人形が披露され、またタイガー・オオコシ・ジャズ・アンサンブルの演奏がありました。

ガラス張りの壁からは、日没で美しく映えるニューイングランドの海が見え、素晴らしい景色と美味しい食事を楽しみました。

- エンターテイメント** カラクリ人形 犬山市長 石田芳弘
演奏 タイガー・オオコシ・ジャズ・アンサンブル

小講演会の後、ライブラリー内の見学が行われました。展示物は、ジョン・F・ケネディー自身の言葉によって解説が付けられ、大統領選挙や民主党大会など、彼の生涯を分かりやすく伝えていました。

見学後、ライブラリー・ホールにてオープニング・セレモニーがボストン日本協会主催で開催されました。ホールはライブラリー最上階まで吹き抜けになっており、海側は全てガラス張りになっていました。パーティー形式は格式高いニューイングランド・カクテル・パーティーでした。

セレモニーにはキーパーソンの方々やボストン近郊のホストファミリーも見え、参加者と交流を楽しみ、大会を祝していました。



小講演会を聴講なさる野村理事(右)



セレモニー、パーティー会場様子

・万次郎の足跡を辿って (Manjiro Trail)

地域分科会最終日、7月19日の午後に“万次郎の足跡を辿って (Manjiro Trail)”が、フェアヘーブン-ニューベッドフォード=土佐清水姉妹都市委員会主催により、マサチューセッツ州フェアヘーブンで行われました。

参加者は午前各地域分科会からフェアヘーブンに集合し、委員会が手配したスクールバスに乗り、ジョン万次郎の通った学校や、万次郎も住んだホイットフィールド船長の家、墓地を委員長であるジェラルド・ルーニーさんと、奥様のアヤコさんや委員会メンバーの方々に案内して頂きました。

見学終了後はミリセント・ライブラリーにて、委員会が作ってくださった昼食を頂きました。

内容: 万次郎の足跡を辿って (Manjiro Trail)

- 1、ジョン万次郎の通った学校訪問
- 2、ホイットフィールド船長宅を外から見学
- 3、ホイットフィールド家墓地見学
- 4、ミリセント・ライブラリーにて昼食



ジョン万次郎の通った小学校



ホイットフィールド船長の墓地

・クロージング・セレモニー

“万次郎の足跡を辿る”終了後、同州ニューベッドフォードに位置するニューベッドフォード捕鯨博物館で最後のプログラムが行われました。到着後、参加者は本館特別展示“太平洋の出会い～アメリカ捕鯨、万次郎、そして日本開国～”や常設展示を見学し、15時より博物館シアター・ホールにてクロージング・セレモニーが行われました。

セレモニーは参加者やニューベッドフォード近郊のホストファミリーが参加し、満員の会場で行われました。今大会に尽力くださった方々からご挨拶を頂き、締めくりにふさわしいセレモニーとなりました。

- 挨拶
- 1、ニューベッドフォード捕鯨博物館学芸員 櫻井敬人
 - 2、同館 ケンダル研究所ディレクター スチュアート・フランク

ニューベッドフォード捕鯨博物館映画

万次郎講談 講談師 旭堂南陽

第15回日米草の根交流サミット・東海大会 お知らせ

- 1、東海大会事務局長 伊藤幸子
- 2、からくり人形披露 犬山市長 石田芳弘

第16回日米草の根交流サミット・コロラド大会 お知らせ

CIE - US 副理事長 ポール・マルヤマ

ジョンホーランド号プロジェクト

万次郎歴史船協会会長 ダニエル・グリーン

コメント 1、在ボストン日本国総領事 西林万寿夫

- 2、フェアヘーブン - ニューベッドフォード=土佐清水姉妹都市委員長 ジェラルド・ルーニー
- 3、ニューベッドフォード捕鯨博物館日米150記念プロジェクト・アドバイザー 北代淳二
- 4、ボストン日本協会理事長 ピーター・グリーリ

・フェアウェル・パーティ

クロージング・セレモニー後、ニューベッドフォード捕鯨博物館内レセプション・ホールにてフェアウェル・パーティーが行われました。博物館からクラムチャウダーやサンドウィッチ等の食事が提供され、ホストファミリーやキーパーソン、参加者との最後の食事を堪能しました。



ニューベッドフォード捕鯨博物館外観



フェアウェル・パーティの様子

・ オプション・プログラム

ニューイングランド大会の終了後、オプション・プログラム参加者は各地へ移動しました。オプション・プログラムはホームステイ・プログラムとしてコロラド州コロラドスプリングスと、ヴァージニア州ワシントンDCがあり、その他全日程フリー・タイムのニューヨーク、シカゴ、ニューイングランドが開催されました。

ホームステイ・プログラムは3泊4日のプログラムで、ステイ先で過去大会の米国参加者との再会を果たした参加者もいました。

コロラド州コロラドスプリングス

キーパーソン: Ms. S

7月20日到着日の夜、参加者とホストファミリー参加のポット・ラック・ウェルカム・パーティーが開催され、素晴らしいもてなしをうけました。

3日目は、コロラドの雄大な自然の中で乗馬を楽しみました。昼食後にはネイティブ・インディアンの笛の演奏があり、自然の力や偉大さをもっとも感じるプログラムでした。



コロラドスプリングス



ワシントンDC

ヴァージニア州ワシントンDC

キーパーソン: Ms. H

【ワシントンDC・オプション・プログラム 参加者の声より】

昨年の第13回千葉大会で茂原市を訪れてくれ

今回の参加目的のひとつで、とても楽しみに!

オープニング・パーティーでお目にかかり懐かしさでいっぱいになりました。昨年の分科会がこのよう

形で繋がったことに感慨深いものがあります。

ワシントンでは他のメンバーとの再会とともに、初めて会ったホストたちの歓迎振りに、とても温かいものを感じました。キーパーソンたちのボランティアや家事の様子がわかったこと、なるほどホームステイは草の根のように人と人をつなげていくのだと実感しました。アメリカでも州によって印象が異なることやワシントンDCの自然に融合した景色、想像をはるかに超えていたポトマック川、夢でしかなかった野外オペラコンサート鑑賞、絵画、ワシントン郊外の快適な生活など、書籍では得られない貴重な体験をさせて頂きました。なんといってもホストたちに家族の一員として迎えられたこと、ユーモアたっぷりの温かいおもてなしに感謝したいです。ボランティアでも大先輩ホストに、これからもいろいろと学んでいけたらと心から願っています。

・ 企業研修参加

サミット大会では、企業から研修として参加する“企業研修参加”も実施されています。今回は各企業から13名が参加しました。

企業研修参加の目的は、NPO組織運営を経験し、企業・社会生活に役立てる事と、日米市民交流の体験によって、市民レベルでの国際感覚を養う事です。

ニューイングランド大会・7月15日の昼には、ベンチャー・キャピタルの投資家である方の講演会と意見交換を行いました。

【企業研修参加者の声より】

Somerset Clubという普段一般人が入れない上流階級の会員制クラブでランチをしながらお話を伺ったのですが、私の想像していたベンチャーキャピタルの投資家像とは全く異なっていました。投資家というと、投資リターン率や財務指標等の数字を重視するものかと思っていたのですが、お話を伺ってみると、実際には、投資先との人間関係を一番重視するということでした。もちろん、投資判断をするときには、その分野の有識者の意見を聞いたり、数字を見たりもするそうなのですが、資本主義の国:アメリカの投資家が「投資先との人間関係を半年かけて築くのに最も時間をかけている」という話は、意外、かつ、今後の仕事にあたっての考え方として参考になるものでした。



企業研修・講演者との記念撮影



大会ホテル・本部で説明を聞く 企業研修者